

NSF2005 概要報告

JNSA 主席研究員 安田 直義

2005年12月1日(木)～2日(金)に大手町サンケイホールでNetwork Security Forum 2005(NSF2005)が開催されました。今年は、コンファレンスに重点を置く形で実施され、事前申し込みが軒並み満席となる大盛況となりました。

<来場者数>

12月1日(木) 天候/晴れ 730名

12月2日(金) 天候/晴れ 337名

合計来場者数 1,067名



コンファレンスの構成

コンファレンスは、p28、p29のプログラムのように2日間に渡って開催され、両日とも午前中の基調講演、特別講演と、午後のJNSAセッションとソリューションセッションで構成されています。

基調講演は政府系の施策等の話、特別講演は学術系の技術や動向解説という、どちらかというと俯瞰的な立場からの話題が取り上げられています。一方午後のJNSAセッションは、技術系と管理系の2セッションがパラレルに走り、さらにJNSA会員企業の製品サービスを中心とした紹介セミナーが2セッション用意され、4セッションが同時進行する形で進められました。沢山のセッションが用意され、あるいは聞きたいセッションが重なってしまった方もいらっしゃるかもしれませんが、それだけネットワークセキュリティの内容の裾野が広がり、専門性も高くなってきたのだと思います。

1日目の概要

1日目の基調講演として、内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) 参事官補佐 山崎琢矢氏による「我が国の戦略はいかにあるべきかー内閣官房を中心とした情報セキュリティ政策の取り組みー」が話されました。





1日目の基調講演：山崎琢也氏

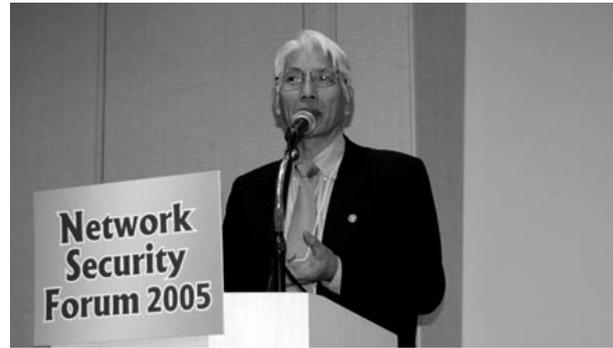
日本にとっての情報セキュリティの重要性を広く知ってもらうことが山崎氏の役割である、ということで、政府サイドの取組が紹介されました。情報セキュリティは決まった方法がある訳ではないので、色々な観点からの情報を示して考えてゆきたいということです。

技術と人間系が両輪にならないといけないといわれていましたが、5年前は身にしみていなかったそうです。現在では、外からの攻撃の代表例であるサイバー攻撃や、非意図的要因、災害時の被害拡大、思わぬ連鎖反応等を視野に入れて対策を考えているとのこと。また、最近は、事業継続性の確保に関心が移ってきているので、この一環として情報セキュリティを位置づける方向にあることが指摘されました。

情報セキュリティは、法律で義務付けるべきであるという議論がありますが、法律で規制をすれば対策の推進になるのではなく、各推進主体・組織が自主的に対策を取る方が望ましいと考えているとのこと。政府が決めることではなく、国民の合意が重要であるので、今後ともご意見を是非いただきたいと締めくくられました。

続いて特別講演は、横浜国立大学大学院環境情報研究院の松本勉教授による「個人認証におけるバイオメトリクス技術の活用と課題」という話題です。

生体認証に係わる技術的な動向や問題提起をデモを交えて判りやすく説明されました。生体認証技術



2日目の特別講演：安田浩教授

は、生体検知情報からテンプレート情報を作成し、データベース登録を行うのが基本となりますが、生体情報は本来アナログデータなので、デジタル化するデータ変換方法によっては登録できなかつたり照合に失敗することがあるという本質論を踏まえた解説がされました。

生体情報は永久不変であることは確かですが、メリットばかりではなくデメリットもあります。正しい生体を「違う」と間違えたり、違う生体を「正しい」と受け入れてしまう誤認識は、パターン認識を利用している以上、避けて通れない根本的な問題であり、登録時の本人確認をどのように併用するかが重要であると指摘されました。これは、暗号システムが方式を明示しても鍵を安全に保持すれば安全を保てるのに対して、生体認証は方式とパターンデータが密接な関連を持つので、方式を公開できないのが現実だそうです。

デモ事例として、指紋認識でシリコンゴム製の擬似指を受け入れてしまったり、虹彩認識もお面ですり抜けられる例が示され、会場からため息が漏れていました。考えなければならない対策の概要が示されましたが、妄信せずうまく使いこなすことが重要であるということで締めくくられました。

午後のJNSAセッションは、前述したように技術系と管理系が平行して開催されましたが、技術系セッションから高木浩光氏のお話を紹介しましょう。

イベント開催の報告

独立行政法人産業技術総合研究所情報セキュリティ研究センター主任研究員の高木 浩光氏による「安全なWeb利用の鉄則～消費者に今伝えるべき本当のこと～」が話されました。高木氏は技術の裏付けの基に、菌に衣を着せない問題提起をされることで各方面で知られており、JNSAのNSF2004でもご講演いただいています。

まず、最近の脆弱性や不正アクセス関係は、多数のターゲットを対象にするのではなく、少数の特定ターゲットを狙ってくるので、メールを疑ってかかるというような対策では既に時代遅れになっているという指摘がありました。ウイルス対策ソフトは、無差別に攻撃してくるタイプには有効だが、個別攻撃をするスパイウェアなどには無力であるということです。

本当に大切なのは、どのようなファイルを開いたり操作をしてはいけないか、ということであり、例えば、DNSを騙すファームウェア対策にしても、個人情報やSSLページにしか載せないようにすれば、認証で警告が出たときに「No」を押せばすむことであり、証明書の中身を確認するまでもない、との説明がありました。

HTMLメールを使ったメールマガジンは、もう役目を終わったということなど、さまざまな対応策や考え方の解説があり、いつもながら考えさせられる講演でした。



2日目の概要

2日目の基調講演は、経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ政策室課長補佐 田辺雄史氏による「情報セキュリティエコシステムの構築に向けて～情報セキュリティガバナンスによる「系」の確立～」が話されました。

情報セキュリティは継続して達成し続けることが必要であることを踏まえ、これまでの経済産業省の情報セキュリティに対する取り組みのご紹介と情報セキュリティガバナンス確立の必要性について説明がありました。

これまで進められてきた技術的対策、情報共有、普及啓発・人材育成に加えて、これからは情報セキュリティを守るための組織体制の確立が重要であることが示されました。この問題は情報システムに限らず、企業全体の活動を適正なものとするための内部統制(コーポレートガバナンス)として考えられます。

米国のSOX法に基づいた内部統制の項目のうち、情報セキュリティ部分がIT統制と呼ばれます。IT統制のフレームワークとしてCOBITやISO/IEC17799があげられました。

情報セキュリティガバナンスを推進するために3つのツールが用意されるそうです。(1)現状を理解するための「情報セキュリティベンチマーク」、(2)法遵守や社会的責任を説明する「情報セキュリティ報告書モデル」、(3)IT事故に備えるための基準である事業継続計画を策定するための「事業継続計画策定ガイドライン」が該当します。最後に情報セキュリティガバナンスの確立に、これらツールを活用してほしいと締めくくられました。

特別講演は、東京大学 安田浩教授による「ユビキタス時代の個人情報保護と著作権管理」が話されました。

ユビキタスと情報セキュリティについて幅広い話題を解説されました。

インターネットや無線通信など、安心安全に使う

ためには多くの問題について考えていかなければならないことが、わかりやすく説明されました。

まず、個人認証について、認証そのものの仕掛けや考え方について分析がされました。一般的な個人認証の評価基準である「破られにくさ」以外に、盗まれる危険性や盗まれた後の対処についても説明され、関心を誘っていました。

情報の利用者としてはITセキュリティガバナンスの確立が必要であり、システムの提供者としてはより深い考察に基づいた開発が必要なのだ、ということが納得されていました。

最後に「最近のネットワークの脅威は何か、そして、我々は何をすべきか～脆弱性関連情報流通体制の現状と今後～」というテーマで、セキュリティ関係の官・民のコアメンバー7名を一堂に会したパネルセッションが行われました。詳しいメンバーはプログラム一覧をご覧ください。

最初に各メンバーからのショートプレゼンが行われ、モデレータの下村氏から、安全安心を実現するには、広い分野の関係者の協力が必要であり、経済産業省を中心とした情報セキュリティ早期警戒パートナーシップなどの広いスキームが作られ、そのスキームに添った形での活動が少し見えてきたので、今回関連するメンバーに出席してもらい、現状と今後についてディスカッションしていきたい、というパネルの趣旨について説明されました。

各パネラーからのさまざまな角度からの問題提起と会場からの質疑やコメントを含め、活発な議論が展開されました。まとめとしては、脅威そのものが変化しているので、新たな脅威への対応を行うために、対象の拡大や、共同戦線が必要であり、コスト負担についても考えなければならないだろう、ということで、時間切れぎりぎりまで熱い討論が続きました。このテーマは引き続き機会のあるごとに継続して考えてゆくことを参加者全員が確認をしてひとまず終了しました。

さいごに

2005年のNSFは、ネットワークセキュリティが新たな局面に到達したことを実感させられるものでした。確かに技術面は基礎的な部分は概ね見通しがつき、更に深い部分はより専門的になってきています。それに対応して、施策や運用管理面での基本的な問題がクローズアップされてきているようです。

来年はまた新たな試みや状況が出てくるかもしれません。会員の皆様からのいろいろなご意見やアイデアを頂戴できれば幸いです。



イベント開催の報告

プログラム一覧

■ 2005年12月1日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:30 ~ 11:30	[A-11] 基調講演 1 我が国の戦略はいかにあるべきか —内閣官房を中心とした情報セキュリティ政策の取り組み— 内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) 参事官補佐 山崎 琢矢			
11:35 ~ 12:35	[A-12] 特別講演 1 個人認証におけるバイオメトリクス技術の活用と課題 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授 松本 勉			
12:35 ~ 13:20	休 憩			
	JNSA セッション		ソリューションセッション	
	技術系	管理系		
	[A-13] 技術セッション 1	[B-13] マネジメントセッション 1	[C-13]	[D-13]
13:20 ~ 14:15	「安全な Web 利用の鉄則」～消費者に今伝えるべき本当のこと～ 独立行政法人産業技術総合研究所 情報セキュリティ研究センター主任研究員 高木 浩光	デジタル・フォレンジクスの効用 弁護士 / 宇都宮大学工学部講師 高橋 郁夫	Web アプリケーション防御の切り札、 Web アプリケーションファイアウォール機 能のご紹介 F5 ネットワークスジャパン株式会社 プロダクトマーケティングマネージャ 福田 健男	消費者が求めるセキュリティ対策： 次の一手 NRI セキュアテクノロジーズ株式会社 情報セキュリティ調査室 室長 工学博士 菅谷 光啓
14:25 ~ 15:20	[A-14] 技術セッション 2 インターネットハッキング最前線 株式会社セキュアブレイン チーフテクノロジーオフィサー 山村 元昭	[B-14] マネジメントセッション 2 海外における内部統制と情報セキュリティ に関する動向と我国への影響 KPMG ビジネスアシュアランス株式会社 常勤顧問 喜入 博	[C-14] 事故から学ぶスバイウェア対策 株式会社ラック 取締役執行役員 SNS 事業本部長 西本 逸郎	[D-14] 企業内業務システムにおけるセキュリティ の課題と TCO に優れた効果的な対策 株式会社アイアイティ 製品事業本部エンタープライズセキュリティ ビジネスユニット マネージャ 今泉 拓
15:30 ~ 16:25	[A-15] 技術セッション 3 セキュア OS の特徴的機能とシステム適用 日本高信頼システム株式会社 代表取締役社長 澤田 栄浩	[B-15] マネジメントセッション 3 医療現場でのセキュリティとリスク管理 NTT 東日本関東病院 運営企画部 医療情報 e-M 部門 宇羅 勇治	[C-15] セキュリティ情報マネジメント (SIM) システ ムを使いこなすには 住商情報システム株式会社 情報システムグループ グループ長補佐兼 セキュリティソリューション事業部 事業部長補佐 二木 真明	[D-15] CA が提唱するアイデンティティ / アクセス マネジメントについて コンピュータ・アソシエイツ株式会社 プロダクトマーケティング部エンタープライズ プロダクト・プランニンググループ プロダク トマーケティングマネージャ 金子 以澄
16:35 ~ 17:30	[A-16] 技術セッション 4 BOT を中心とした脅威とアジアでの動き マカフィー株式会社 AVERT (緊急ウィルス対策チーム)研究員 本城 信輔	[B-16] マネジメントセッション 4 2004 年度個人情報漏えい事件の分析と 想定賠償額の算定による評価 JNSA セキュリティ被害調査ワーキンググ ループリーダー 株式会社アイアイティ 山田 英史、CISSP	[C-16] 企業価値を高める最新セキュリティリスク マネジメント トランスデジタル株式会社 セキュリティ事業部 セキュリティコンサルタ ント 西野 光、GSEC	[D-16] セキュリティ監査結果がもたらす、システム 運用シナリオの変化 NEC ネットソリューションズ株式会社 第三システム事業部マネージャ 小峰 光

■ 2005年12月2日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:30 ~ 11:30	[A-21] 基調講演 2 情報セキュリティエコシステムの構築に向けて 経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ政策室 課長補佐 田辺 雄史			
11:35 ~ 12:35	[A-22] 特別講演 2 ユビキタス時代の個人情報保護と著作権管理 東京大学 教授 安田 浩			
12:35 ~ 13:20	休 憩			

	JNSA セッション		ソリューションセッション	
	技術系	管理系		
13:20 ~ 14:15	【A-23】 技術セッション 5 ネットワークセキュリティの知識体系化と浸透にむけて 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授 門林 雄基	【B-23】 マネジメントセッション 5 情報セキュリティマネジメントに関わる ISO 規格化動向 - ISO27000 シリーズのご紹介 日本電気株式会社 政策調査部 技術標準エキスパート 平野 芳行	【C-23】 1. 求められる情報セキュリティ専門家 2. BCM について～何があっても大丈夫？～ NTT コミュニケーションズ株式会社 プラットフォームサービス部 セキュリティコンサルタント CISSP, 副島 聡	【D-23】 トレンドの先端を行く米国 IT セキュリティの最新動向 株式会社フォーバル グループ最高技術責任者 (CTO) 兼フォーバル クリエイティブ取締役 ウィリアム 齋藤
14:25 ~ 15:20	【A-24】 技術セッション 7 「セキュリティ対策としての暗号の実装と課題」 JNSA 技術部会 S/MIME ワーキンググループリーダー 磐城 洋介	【B-25】 マネジメントセッション 7 戦略的に取り組む情報セキュリティ・ガバナンス アイ・ビー・エム ビジネスコンサルティングサービス株式会社 チーフセキュリティオフィサー、パートナー、IBM Distinguished Engineer, IBM アカデミー会員 大木 栄二郎	【C-25】 e-文書法におけるタイムスタンプの必要性 日本セーフネット株式会社 エンタープライズセキュリティ事業部 事業部長 小池 康幸	【D-25】 ID 管理基盤システムの実現～現実と理想～ 東芝ソリューション株式会社
15:30 ~ 16:25	【A-25】 技術セッション 8 多様化するマルウェアの実態と対策～既存のウイルス管理ではなぜ駄目なのか？ スパイウェアのポリシー管理～ 株式会社アークン 代表取締役 渡部 章	【B-25】 マネジメントセッション 8 “(ECOM) セキュリティ対策評価モデル” の紹介 元電子商取引推進協議会 (ECOM) 重松 孝明	【C-25】 マイクロソフトのセキュリティ関連技術解説 日本セーフネット株式会社 セキュリティ戦略グループ シニアプロダクトマネージャ 古川 勝也	【D-25】 導入時期迫る日本版 SOX 法に備えた IT ソリューションの紹介 菱洋エレクトロ株式会社 システム情報機器 営業第 2 本部 営業第 3 部 営業第 3 グループ グループリーダー 平野 元洋
16:35 ~ 17:30	【A-26】 パネルセッション < 16:35 ~ 17:50 > 最近のネットワークの脅威は何か、そして、我々は何をすべきか～脆弱性関連情報流通体制の現状と今後～ 日本ネットワークセキュリティ協会理事・事務局長 株式会社ティアイティ代表取締役 社長 下村 正洋 内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) 参事官補佐 岡谷 貢 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー長 福澤 淳二 有限責任中間法人 JPCERT コーディネーションセンター (JPCERT/CC) 情報流通対策グループマネージャ 椎木 孝斉 株式会社 NTT データ セキュリティサービスユニット 部長 西尾 秀一 KDDI 株式会社 情報セキュリティ推進部 部長 (兼務) NICT セキュリティ高度化グループリーダー 中尾 康二 日本電気株式会社 IT 戦略部 セキュリティ技術センター シニアマネージャ 宮地 利雄	【B-26】 不正アクセスによるサイト閉鎖・個人情報漏洩を防げ！ Web セキュリティ実践セミナー 京セラコミュニケーションシステム株式会社 IT プラットフォーム事業本部 インターネットビジネス事業部 事業部長 徳丸 浩	【C-26】 マカフィーが考えるセキュリティ・ライフサイクル マカフィー株式会社 マーケティング本部 本部長 久保田 直己	【D-26】 導入・運用を容易にする PKI ソリューション (S/MIME、アクセスコントロール) サン電子株式会社 eソリューション事業部 取締役 事業部長 小嶋 修